

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2016年度（後期）指定公募  
「市民の集い開催への助成」  
完了報告書

指定テーマ

「在宅医療」を知っていますか？家で最期まで療養したい人に。

平成29年6月24日

サブテーマ：再び「自然死」について

申請者：松尾大志

所属機関：医療法人まちのオハナ マーガレットクリニック院長

提出年月日：平成29年7月20日

## 1. はじめに

日本の6割の方は死ぬ場所として「自宅」を希望します。しかし、実際の死に場所は「病院」が8割です。名古屋「自分の死を考える集い」のアンケート結果では、「自宅を希望したいが家族に迷惑をかけたくないので病院に入院したい」という回答が2割でした。そこには、「死」が日常から遠のいてしまったが故の漠然として不安が潜んでいるように思います。

2025年を前に、相対的な医療福祉関係者のマンパワー不足は否めません。病院や施設が飽和状態になり、医療・介護の使い方がますます難しくなると思います。専門職の力量も試されることとなりますが、患者力・家族力も、また課題になるのではないかと感じます。本来、日本では家で家族が家族を看取ってきました。自宅での死亡が1割となり家での看取りが伝承されなくなった今、情報を共有し一人一人が考えること、それが患者力・家族力を高めることに繋がります。それによって患者や家族が主体的に医療介護を選択できるようになり、結果的には在宅での看取り率を高めることになると思います。

## 2. 企画内容

【開催日時】 平成29年6月24日（土）14:00～16:00

【開催場所】 愛知県産業労働センター ウィンクあいち  
愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38

【参加者】 131名（申込149名 当日不参加25名 当日参加7名）

【開催内容】 在宅医療、看取りの最も障害になるものは家族の心構えです。そこで、死に対する恐怖や介護の上で苦勞するであろう医療との関わりを考えるきっかけ作りとして、第4回名古屋自分の死を考える集いでは、「自然死」をテーマにしました。

【プログラム】 第1部「元気なうちから知っておきたい在宅医療」

第2部「再び自然死について」

<スケジュール>

11:00 集合

12:00 会議室鍵受領

12:30 会議室解錠 会場準備

13:30 受付

14:00 開会 オリエンテーション

14:03 開会あいさつ

14:05 第1部「元気なうちから知っておきたい在宅医療」

マーガレットクリニック院長 松尾大志氏

①ワークショップ

## ②在宅医療事例 紹介

14:40	休憩
14:45	第2部「再び自然死について」 老人ホーム「同和園」診療所所長 中村仁一氏
15:30	質疑応答
15:55	閉会あいさつ
16:00	終了 片づけ開始
16:20	片づけ終了
16:30	退室

## 2. アンケート結果 ※アンケート回答113名（回収率86.3%）

### 【参加者職業】

医師1名、看護師33名、介護関係者29名、会社員8名、自営業10名  
学生4名、無職12名、その他11名

### 【感想】

- |                                       |     |
|---------------------------------------|-----|
| <input type="checkbox"/> とても良かった      | 70名 |
| <input type="checkbox"/> 良かった         | 35名 |
| <input type="checkbox"/> 期待した内容では無かった | 2名  |
| <input type="checkbox"/> なんとも言えない     | 1名  |

### 【自由記載コメント】

- ・「死は怖くない！」心が軽くなった。先生方の話を聞ける機会を増やしてほしい。
- ・「死」について笑いながら聞けました。誰にでもやってくる死、避けられないものなので、このような機会はとてもありがたかった。
- ・看護師ですが、今日改めて在宅死について考えることが出来ました。
- ・自然死について目からウロコでした。
- ・参加して本当によかったです。自然死について先生のおっしゃることに納得し、自分の死に関して考えていきたいと思います。
- ・自分の親を自宅で看取りたいと考えました。ありがとうございました。
- ・とても楽しかったです。ポックリ逝かずに孤独死を目指そうと思います。
- ・ためになりました。
- ・訪問看護師です。死に対する考えが変わりました。ケアの内容を考えていきたいと思っています。
- ・死に対して、知らない人が増えています。こうした話を聞くことができ死を考える機会になりました。元気なうちから考えていけば、本人の希望に叶った死を迎えることができると思いました。
- ・死に際して、何をすべきか、何をしたらダメなのかよくわかりました。

- ・家族で伝えることが大切だと思いました。
- ・死を視野に入れて生きることが人生を豊かにすると改めて学びました。看護師としてエゴになっていないか常に考えていきたいです。
- ・在宅医療に安心感を覚えました。自然死の話は胸にストンと落ちました。
- ・「生ききる」ためには普段から考えておくことが大切で、理解してくれる家族・医師・看護師などに恵まれることが大切だと思いました。
- ・自然死について目からウロコでした。医療現場での迷いが自分なりに核心が持てて良かったです。看護観が変わりました。
- ・在宅の事例は心が温まりました。
- ・自分も乳がん治療中で、「死」を身近に関している中で、参加して気持ちが楽になりました。在宅も病院も自分で選択できると感じています。
- ・高齢者の方と関わりますが、反省しなければならぬなあと思いました。
- ・もう少し聞きたかったです。
- ・自然死の話は、親の介護に対する不安が無くなりました。気楽にやれそうです。
- ・在宅事例を見て、ひとりでも多くの人を知る事が大切だと思いました。そのうえで各自が選択できるようにしたいと思いました。
- ・若い先生が生活をメインに見据えた治療をされていらっしやって、もっと、後に続く医師が増えたら・・・と感じました。医療者・介護者・患者・家族の意識を変えていくことが大切だと感じます。
- ・今、自分が行っている看護が間違っていないと確認できました。家族側の体験を聞きたいです。
- ・死ぬ直前の人への医療について考えることができました。大学では聴けない話で楽しかった。本人にとって本当に良い事は何かを考えました。
- ・今まで疑問に思っていたことに、多少答えが出たような気がします。近所に在宅医師がいないことがとても心配です。
- ・楽に死ぬ方法を学べて良かった。
- ・穏やかな死がどういうものか分かった気がします。
- ・人生において生き方など勉強になりました。家族や友人にもお話をぜひ聞いてほしい。聞かせたいと思いました。
- ・命は「1分1秒でも長く」より「楽に」の考え方に共感します。じわじわ1週間（で亡くなる）というのがいいです。先生方のような医師が増えることを望みます。
- ・大変心に響くお話でした。
- ・死ぬということを自覚して生きなければいけないと思いました。
- ・モヤモヤしたことをバッサリ切られた感じで痛快でした。（ケアに）自己満足の意識、考え直そうと思います。

- ・人間が死ぬということ、死に方について腑に落ちました。とても良かったです。
- ・死について、家族と話し合う機会を持ってみようという気持ちになりました。
- ・脳内モルヒネの話は、父との最後に後悔の念を抱いていたので、安心しました。  
あれで良かったと思えました。
- ・自然死についてよくわかった。特養での食事介助に疑問を持っていたので参考になりました。
- ・死について考える機会となりました。食事一つにしても死との関係が密であることをひしひしと感じました。
- ・死について考える機会になりました。死、介護、医療への考え方や捉え方がわかったように思います。心に響きました。
- ・わかりやすく面白かった。
- ・死を考えるきっかけになった。人は死に向かって生きていることを改めて考えました。親はいつまでもいると思っている自分に気づきました。今日を大切に生きることを真剣に考えます。
- ・改めて命について、生きること、生き抜くこと、死の準備について話し合うこと・・・考える良い時間となりました。去年の講演会の後、自分の父の死を振り返り、父は幸せだったと思えるようになりました。そして、「在宅医療を受けたい！家で死にたい！」と普通に言える世の中にしたい。その時、寄り添える看護師でありたいと思いました。自分の看護師人生の転機にもなりました。
- ・介護関係者として看取りを支援する立場ですが、自分の日頃の支援の在り方を振り返るよい機会になりました。
- ・今後の事を考えられた。勉強になりました。延命を行っている医師との討論等見てみたいです。
- ・母親がガンだと分かり、これからの対応など考えることができた。すごく心に響きました。
- ・自然死は実は怖くない、本人は辛い、ということを知りました。たくさんの方に、このお話を聞いていただきたいです。
- ・今の医療が怖いです。83歳の父が要らない医療で苦しみました。病院に連れて行かなければ良かったという思いです。父の死を無駄にしないで生きていきたいです。
- ・薬学部に通う学生です。大学で診断名や検査値などから適切な薬剤を検討する講義がありましたが、「この患者さんは治療をそもそも行いたいのか？」と、ふと疑問に思いました。私たち学生は治すことばかりを考え、患者さんの人生について考えが及びませんでした。先生方のお話が、社会に出た時に役立つ日が来ると信じています。自分の命の最期を自分で決めるという考えや、病気は自分で治すという考えを、なぜ日本人は知らない人が多いのでしょうか。どうして

このようになってしまったのでしょうか。一人一人が気づけるように医療者にできることは何か考えていきたいと思います。

- ・3人の親を自宅で看取りました。中村先生の著書はバイブルでした。直接お話が聞けて良かったです。
- ・お二人のお話を聞くのは2回目でしたが、あらためて学びがあり、とても勉強になりました。
- ・中村先生、松尾先生のポリシーを徹底すれば、日本の医療費の大幅な削減が期待できると思います。
- ・中村先生の老人ホームでの看取りの数の多さにびっくりしました。医療職として看取りまでの体に起きる変化を分かりやすく伝えられるようになりたいと思いました。
- ・日ごろ、看護師として人の死ばかりを考えていたので、自分の死について考えるよい機会となりました。
- ・死ぬ前に脳内モルヒネで痛みがないということを知り、今日、来て良かったです。死についての不安が無くなりました。
- ・松尾先生の誠実さに大変心打たれました。
- ・「枯れて死ぬ」ために今を「生ききる」ことを思い起こします。たんぼぼクリニックの想いを名古屋から愛知に広げられることを願っています。
- ・とても分かりやすくお話いただきありがとうございました。
- ・今まで聞いたことがない話や、事例などを知る事が出来、視野がかなり広がりました。余命6か月エクササイズはやっていきたいと思います。在宅事例の家族様からのお手紙からも、在宅で過ごすことを選択肢は重要だと感じました。私の地域でも「自分の死を考える集い」があればいいと思いました。
- ・今まで、家族に迷惑がかかるので死ぬなら病院か施設でと思っていたのですが、すーっと自宅で死ぬのが良いのかと改めて考えています。
- ・輝いて生きることと自然死は相性が悪いのではないかと思います。ぴんぴんころりは考え物でしょうか？
- ・とてもためになりました。本人のための介護を実践していきたいと思います。本人が望まない医療介護を提供してくれる医療福祉関係者を見つけることがとても困難なことが悩みです。
- ・改めて、病院に「頼らない・任せない・利用せよ」を実感しました。
- ・自分の枯れるように死にたいです。
- ・在宅事例の家族の方のお手紙や動画など、とてもグッときました。お手紙のように言っただけの看護師として関わりができるとよいと思いました。中村先生のお話は、今までの看護観が全く変わりました。楽しいお話でした。
- ・「今を輝いて生きるために死を視野に入れて生きる」まさしくのお言葉、本当に

ありがとうございました。今後の生き方、死に方、を考えたいと思います。もっとお聞きしたかったです。

- ・看護師として、こうした場を情報交換として行っていけたら嬉しいです。
- ・「看取りについて」という内容だったので、肩に力が入りながら参加させていただきましたが、あまりに当たり前に「枯れて死ぬ」という事を教えてもらえませんでした。ありがとうございました。「今を生きるために死を視野に」自分が余命半年と言われたら、何をするか、具体的に書き出し、そして実行する、これは必ず実行したいと思いました。
- ・在宅訪問看護を始めたばかりで、ご家族の不安や戸惑いを受け止めきれず悩んでいた時期でした。もっと自分も勉強して、苦しくない、楽な死を迎えていただけるようにしていきたいと思えました。ありがとうございました。
- ・中村先生の老人ホームでの看取りで、痛みが全くないという自然な死が迎えられるということ、初めて知りました。在宅での痛みの調節にとてもよいお話でした。松尾先生の「誰でも在宅の看取りが出来る」という話、自分も同感です。
- ・介護職員として食べる気力のない方への食事介助は毎回疑問でした。それが、本人を苦しめていることを自分の中では納得できましたが、現場ではなかなか声に出しては言えないと思いました。
- ・看護師として普段行っているケアが、果たして相手にとってよいことなのか、穏やかな死を準備しているところを邪魔していないか考えながら業務を行いたいと思いました。
- ・中村先生のお話がおもしろおかしく聞かせてもらいました。死んでいるのか？死んだふりをしているのか？医者も高齢化だから・・・など。
- ・2回目の参加です。前回に比べ、死に対して考えていたおかげで講演内容がスッと入ってきました。
- ・聞き取りにくい部分があり残念でした。自然死について、家族と自分の思いを話すことが大事、また素直に生きることが大事だと思いました。

#### 4. 感想

企画段階で、期待される効果・波及効果として、以下の点をあげました。

- ① 死に向かう人の安楽な過ごし方について知る事で、安心して自宅を選べる。
- ② 家族が自宅での最期を望んだとき、自宅で看取ろうと思える。

講演が終わりアンケートをまとめると、多くの方が死について改めて学び、看取りについて場所も含めて考えるきっかけになりました。またコメント数からも、この講演会が死についての心構えや、医療福祉関係者の専門職としての概念に影響を及ぼしたと考えます。

超高齢多死社会の今、地域包括ケアシステムの充実が望まれています。システム作り

も大事ですが、システムを利用する地域住民たちが病院志向であれば、利用率は上がらないと考えます。病気や障がいがあっても、在宅で家族と穏やかな生活を営むためには、「在宅で過ごしたい」という本人の思いや「在宅で過ごさせたい」という家族の意識が最も重要だと考えます。その意識は、健康なうちに家族間で共有しておかなければ、いざとなった時に在宅を選ぶことがなかなか難しくなります。人は想定していない事にはなかなか適応できないからです。「地域住民の死に対する心構えの育成」それは、地域包括ケアシステム推進のための重要な課題と考えます。

今回の講演会では、改めて「死」が日常から遠ざかっていることをひしひしと感じました。今後も、一般市民の死生観育成を目的として、名古屋「自分の死を考える集い」を継続いたします。

(文責：成山春江)

「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による」



# 名古屋 第4回「自分の死を考える集い」

「今」を輝いて生きるために「死」を視野に

2017年6月24日(土)

14:00開催

## 「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に。

### 講演：再び「自然死」について

講師：中村 仁一 氏

(医師・老人ホーム「同和園」診療所所長)

プロフィール：なかむら じんいち

1940年、長野県生まれ。社会福祉法人老人ホーム「同和園」附属診療所所長、医師。京都大学医学部卒業。財団法人高雄病院院長、理事長を経て、2000年2月より現職。

1996年4月より市民グループ「自分の死を考える集い」を主宰する。

主な著書に「大往生したけりゃ医療とかかわるな―「自然死」のすすめ―(幻冬舎)

「幸せなご臨終―「医者」の手にかかって死なない死に方」(講談社)がある。



#### 日 時

2017年6月24日(土) 開場：13:30 開演：14:00 終了：16:00

・第1部：「元気なうちから知っておきたい在宅医療」

・第2部：再び「自然死」について

#### 参加費 無 料

参加費  
無 料

#### 場 所

ウインクあいち 902 会議室

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅 4-4-38

#### 申込方法

①ホームページ：名古屋「自分の死を考える集い」の申し込みフォーム

<http://daiohjo.com/moushikomi/>

②電話：TEL.050-3591-1674 (午後8時以降)

③FAX：裏面のファックス申込用紙をお使いください

#### ■お問い合わせ

名古屋「自分の死を考える集い」実行委員会

Tel. 050-3591-1674 (午後8時以降)

E-mail: [tsudoj@daiohjo.com](mailto:tsudoj@daiohjo.com)



ホームページ



お申し込みフォーム



主催者：医療法人まちのオハナ  
在宅療養支援診療所  
マーガレットクリニック 理事長 松尾大志

助成：「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団」

# 名古屋 第4回「自分の死を考える集い」

「今」を輝いて生きるために「死」を視野に

2016年6月24日(土)

14:00開催

## 「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に。

講演：再び「自然死」について

助成：「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団」

日時：2017年6月24日(土) 開場：13:30 開演：14:00

・第1部：「元気なうちから知っておきたい在宅医療」

・第2部：再び「自然死」について

参加費：無料

会場：ウインクあいち 902会議室

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-4-38

申込方法：名古屋「自分の死を考える集い」ホームページでご案内します

<http://daiohjo.com/>

Tel. 050-3591-1674 (午後8時以降)

【キャンセルポリシー】

多くの方に参加いただきたい講演です。

キャンセル待ちでお待ちになる方に空席のお知らせを

順次行うためにも、キャンセルされる場合は、

電話にて、ただちにご連絡をお願いいたします。

電話番号:050-3591-1674(午後8時以降)

## <<参加申込用紙>>

■ご参加ご希望の方は、下記ご記入の上ファックスをいただきますよう、お願いいたします。

# FAX番号:052-821-2158

◎この用紙で3名まで申込みが可能です。3名を超える場合は、この用紙をコピーしてお使いください。

※は必ずご記入ください。

FAX方向

※ 氏名	
※ 住所	
※ 電話番号	
メールアドレス	
メッセージ	
※ 氏名	
※ 住所	
※ 電話番号	
メールアドレス	
メッセージ	
※ 氏名	
※ 住所	
※ 電話番号	
メールアドレス	
メッセージ	

FAX番号はくれぐれもお間違いがないようにご注意ください。 FAX番号:052-821-2158



## アンケートにご協力ください。

平成 29 年 6 月 24 日

### 第 4 回 名古屋「自分の死を考える集い」

#### 1. 第 1 部「元気なうちから知っておきたい在宅医療」

講師：松尾大志（ひろし）氏

（医師・医療法人まちのオハナ マーガレットクリニック院長）

1979 年 名古屋市名東区生まれ。幼少期を、名東区・天白区で過ごす。  
福井大学医学部 卒業。名古屋第一赤十字病院、名古屋医療センター、名古屋大学医学部附属病院などにて、循環器内科・救急医療の急性期医療に従事。医療法人 三つ葉 三つ葉在宅クリニック、医療法人ゆうの森たんぼクリニックにて、在宅医療全般についての研鑽を積み、2015 年 3 月在宅療養支援診療所としてマーガレットクリニックを開院。

#### 2. 第 2 部「再び『自然死』について」

講師：中村 仁一 氏

（医師・老人ホーム「同和園」診療所所長）

1940 年、長野県生まれ。  
京都大学医学部卒業。財団法人高雄病院院長、理事長を経て、2000 年 2 月より現職。1996 年 4 月より市民グループ「自分の死を考える集い」を主宰する。主な著書に『大往生したけりや医療とかかわるな—「自然死」のすすめ—』（幻冬舎）『幸せなご臨終—「医者」の手にかかって死なない死に方』（講談社）『大往生したけりや医療とかかわるな【介護編】』（幻冬舎）がある。

#### 1. ご職業について

医師  看護師  医療コメディカル  介護関係  会社員  自営業  学生  無職  
 その他( )

#### 2. 名古屋「自分の死を考える集い」にお越し頂いたきっかけをお聞かせ下さい。

HP を見て  フェイスブックを見て  チラシを見て  ダイレクトメールを見て  
 ラジオを聞いて  友人知人からの紹介  その他( )

#### 3. 感想をお聞かせ下さい。

とても良かった  良かった  期待した内容では無かった  なんとも言えない  
よろしければ、その理由をご記入ください。

#### 4. 中村仁一先生、松尾大志先生にメッセージがありましたらご記入ください。

#### 5. 現在、皆さまが興味をお持ちのものがあればお聞かせ下さい。

自宅で死ぬということ  医療の選択について  家族として看取りを考える  納棺師のお話  
 医師のお話  看護師のお話  終末期の専門家のお話し  医療福祉関係者の意見交換  
 その他：具体的なテーマがありましたらご記入ください。

#### 6. 現在、お困りの事などございましたら、お聞かせ下さい。

\* 個人情報は適切に管理取扱いいたします。以上、ご協力ありがとうございました。  
名古屋「自分の死を考える集い」